

「第二次日本経穴委員会」便り

～第22回 日本での公式会議に向けて～

第二次日本経穴委員会作業部会委員 さかくちしゅんじ 坂口俊二

めまぐるしい会議が終わり

すでにご報告の通り、WHO第6回経穴部位の国際標準化に関する非公式会議(2006年3月、東京)が終了し、全361の経穴部位について日中韓3カ国の同意案がまとまりました。長い道のりでしたが、回数を重ねる度に、日中韓がお互いの歴史的背景を理解しつつ、妥協点を見出す姿勢が見られたことはとても意義深いものでありました。

その反面、今回の国際標準化の動きは2002年から始まり、日本では第二次日本経穴委員会作業部会が2004年に発足し、実質的な作業に入ってから2年という歳月は、3カ国が作業原則の一部を見失ったり、また誤った方向に進んでもそれに気付かなかったり、論点のズレを生じさせたりしました。そのくらい過酷で、めまぐるしく事態が変化する会議でもありました。

余韻に浸る暇もなく次の作業へ

361穴の部位決定の余韻に浸る間もなく、作業部会は4月9日には19回目の会議に臨みました。その目的は、今回同意に至った19穴を含めた全361穴について、日中韓が総チェックを行い、上述したように歳月とともに生じたズレを見つけ出すことにありました。

その1つは中国語表記です。この総チェックは困難を極めました。中国留学経験のある河原委員が中心となり根気強い作業が始まりました。

その結果、約100カ所にも及ぶ再確認すべき点が出てきました。例えば、「…穴の横に並ぶ」という表記一つをとっても、「相平」「水平」「平」「横平」が使われ、さらにその表記は大半が、部位表記中で経穴名の前に位置するのですが、「相平」のみは文末に配置されていました。他にも「凹陷中」と「凹陷處」、「外上方」と「側上方」などです。

しかし、これらは単に統一性がないものとは言えない可能性もあり、日本案として提示し、中国側に確認を求めることになりました。非公式会議の中でも度々、漢字の指示する意味が日中で異なることも経験していました。例えば、前縁、後縁などの「縁」は経穴の日本語表記には多数出てきますが、そこにも意味の違いがありました。この違いをしっかりと埋めておかなければ、表記のみが表面的に標準化されただけで、臨床的には何らこれまでと変わらないということになってしまうからです。慎重を期す作業がもうしばらく続きます。

本部会のもう一つの作業は、中国語と日本語の表記についての共通認識は当然のことながら、鍼灸医学のグローバル化にとってさらに大

事な英語表記の検討をすることです。

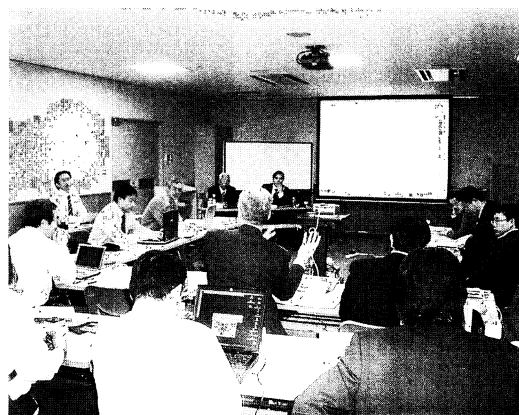
英語表記の素案は、3月の第6回非公式会議時に韓国のアドバイザーの金先生からすでに提出されていました。これについては中国のアドバイザーの黄先生から経穴の部位を示す区分について意見が出され、当然のことですが、解剖学書の最新版の表記を採用することや鍼灸医学における専門用語には必ず英語表記の後ろに漢字表記を併記することが確認されました。

例えば、「赤白肉際」は、“on the junction of the red and white skin〈赤白肉際〉”となります。英語で経穴部位の細かなニュアンスを表現するのは非常に難しいのですが、その分、部位が非常に明瞭に表現される感を受けました。韓医学では英語による教育が主体であることの強みを感じました。

全361穴の英語表記の総チェックは、篠原副委員長と私が主に担当しました。中国語表記案を見ながら、これが英語で適切に表記されているかを1穴ずつ確認する作業です。英語の辞書、英和医学辞書、医学用語辞典、解剖学書を傍らに置きながら、時間をかけて作業を行いました。その結果、スペルミスはなく、表現方法や部位表記の順序、表記不足など約40カ所を確認すべき点とした案を作成しました。

いよいよ公式会議が開催される

全361穴に対する総チェックの結果は、日本が取りまとめを行い、4月中に中国、韓国に送られ、6月にWPRO (WHO西太平洋事務局)と韓国共催による専門家委員会で最終決定されます。決定された全361穴の部位案は、WPROを通じて世界各国に送られ、世界の専門家の意見を聞いてから、その決定を10月31日～11月2日に、つくば市で開催される公式会議で諮ります。WHOの公式会議をホスト国として開催する責



白熱した非公式会議の議論風景

任とその意味を再認識したいものです。

1982年12月にマニラのWHO事務局で行われた第1回経穴用語標準化に関するWHO西太平洋地域諮問会議、さらに1989年10月30日から11月3日にジュネーブのWHO本部で行われた鍼灸用語標準化国際会議で、経絡・経穴の国際統一標準用語・略号が決定されて以来、なかなか踏み込めなかった、いや踏み込もうとしなかった経穴部位の標準化が17年の時を経てようやく実現するのです。鍼灸医学のグローバル化に向けての歴史的一步を日本で実感することができます。東洋医学関連団体がしっかりと足並みを揃え、その団結力を国に示す機会にもなればなお一層うれしいことです。

公式会議終了後、順調に作業が進めば、約半年後にはWHOから経穴部位表記の正式なreportが全世界に向けて発信されます。作業部会もそれに合わせた日本語版の発行に向けて準備を進めていきます。そして標準化された経穴部位が日本の教育に浸透するまで、さらに長い年月を要することと思われま。それを見守りサポートしていく作業は、これまでの標準化作業よりもっと大変ですが、重要な作業となるでしょう。

(〒590-0482 大阪府泉南郡熊取町若葉2-11-1)